

❀ 第3回 開催報告 ❀



ご参加いただいた皆さま
ありがとうございました。

日時 平成30年1月27日(土) 13:00~15:00

場所 外海ふるさと交流センター

参加者 地域の皆さん 約24人



1 第3回までに話し合ってきた内容

第1回

(11/23)

- ①長崎市の**公共施設の現状**（利用状況や老朽化の状況など）や**見直しの必要性**についてご説明しました。
- ②市の説明をふまえ、**どんな施設を見直すべきか**、**どんな取り組み**ができるか話し合いました。
- ③外海地区にある**公共施設の利用状況**を付せんに書き出し、地区にあるどの施設を見直すべきか話し合いました。



第2回

(12/17)

- ①公共施設の種類ごとに**市全体の公共施設の配置の考え方**と、第1回で参加者の皆さんから伺った施設の利用状況や、建物の状況などを基に市で検討した**公共施設のあり方の見直し案**をお示しました。
- ②**見直し案**に対しての**ご意見・ご提案**を、書き出してもらい、グループごとに**課題やアイデア**を出し合いました。



地域の実情や課題を踏まえた
新しい使い方やアイデア

第3回

(1/27)

- ①第2回で参加者の皆さんから伺った意見に対し、**市で検討した結果**をお示しました。
- ②第2回で皆さんの関心が高かった施設について、市から**「話し合ってもらったこと」**を提案し、グループごとに**意見交換**を行いました。



詳しい内容は、
中面をご覧ください。



2 市からの回答 と 話し合っていたきたいこと

※各班の提案の一部を掲載しています。

○外海歴史民俗資料館

第2回

(住民)
前回の
主な意見

- 施設が古く、耐震化、バリアフリーがなされていない。
- 大規模改修か縮小建て替えを行っては。
- 池島炭鉱の展示は神浦でもいいのでは。
- 地域独特のキリシタン資料、出津地区の土器の資料は残してもらいたい。



第3回

(市)
回答

現在、歴史民俗資料館運営委員会で、展示資料の整理の考え方についての議論が行われておりますが、歴史民俗資料の統合は2023年以降と考えており、それまでに将来的な施設のあり方について検討したいと考えています。

(市)
質問

歴史民俗資料館の所蔵するキリシタン資料、ド・ロ神父関連資料、出津地区の土器資料等、外海地域特有の資料を展示する場所としてふさわしい場所は、現在の施設以外にどこかありますか。

2班

3班

(住民)
今回
出された
アイデア

- キリシタン関連遺産だけなら子ども博物館に移せるのではないかと、又は救助院に一部移せるのではないかと。移転後は駐車場として活用する。
- ほかに適当な場所はないのでは。
- 出津文化村の核となる拠点施設として残してもらいたい。

○西出津ゲートボール場

第2回

(住民)
前回の
主な意見

- 建物の塗装(維持管理)をしっかりする必要がある。
- 多目的に使えるようにしては。
(フットサルやグラウンドゴルフ等)



第3回

(市)
回答

ゲートボール場の利用は、週に2回程度で、ナイター設備の利用はほとんどありません。今後、利用に対する皆さん方のお考え、また、近くに中学校が移転することを踏まえ、多目的な活用について検討していきます。

(市)
質問

具体的にどのような利用の仕方が考えられますか。

1班

2班

(住民)
今回
出された
アイデア

- フットサルやグラウンドゴルフでは狭いと思う。
- 市内のゲートボール団体に周知をして使ってもらい、大きな大会等をしてもらえば利用度は上がるのでは。
- 中学校ができるので、子どもたちのために活用する。
- イベントで活用(以前ド・ロ神父のイベントを行った。)
- 地域行事で活用



○外海ふるさと交流センター

第2回

(住民)
前回の
主な意見

○行政センター跡のスペースを活用し、宿泊施設の拡充を。



第3回

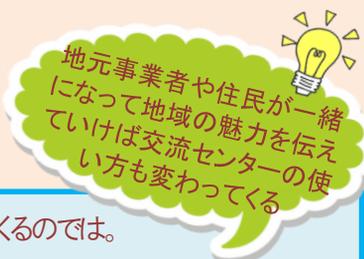
(市)
回答

○「外海イン」の客室が満室になるのは、平成28年度に年間で31日しかありません。
○年間の利用状況は、1日平均4.8室(全10室)で稼働率は48.2%となっています。
○したがって、余剰スペースをホテル客室に転用するには、利用状況、採算性等をみながら判断する必要があると考えています。

(市)
質問

外海地域センター余剰スペースについては、宿泊機能以外でどのような使い方が考えられるでしょうか。

1班 6班



(住民)
今回
出された
アイデア

○世界遺産効果で観光客が増えた時に宿泊機能の必要性がでてくるのでは。
○元々住民のための施設なので、無料開放する。
○グリーンツーリズムの一環で滞在拠点・情報発信拠点として活用し、神浦の魅力(大中尾棚田、丸尾の石積群、お寺など)に触れてもらう。
○空きスペースは地域の伝統文化を体験してもらうスペースとして活用する。

○遊休資産(旧神浦中、旧外海行政センター、黒崎中※H31年4月以降)

第2回

(住民)
前回の
主な意見

○世界遺産関係で観光客が増えると思うので、大型バスが駐車できる資料館が作れないか。
(旧神浦中、旧外海行政センター、黒崎中)
○調理室を開放して地元に使ってもらっては。(旧神浦中)



(市)
回答

○長崎市では、外海歴史民俗資料館を世界遺産センターのサテライト施設と位置付け、平成28年度に、既存の外海のキリスト教関連資料と共に、世界遺産の価値を説明するための展示の追加を行っており、今後も情報発信拠点として活用していく予定です。
○旧神浦中の調理室の開放については、近くにある外海公民館の調理実習室の利用状況を踏まえて検討する必要があります。



(市)
質問

新たな財源の確保の観点から民間への売却や貸付を検討していますが、その考え方について、どうお考えですか。また、地元で活用する場合、維持管理や運営はどう考えますか。



1班 2班 3班

(住民)
今回
出された
アイデア

○通信設備を整備し企業誘致(旧神浦中)
○ゆうこうの栽培地、公文書館の設置、ネットを通じ太鼓等の音楽グループへの貸出し、老人福祉施設への貸出し、貸倉庫として活用(黒崎中)
○社協の移転先(旧外海行政センター)
○民間への売却、貸付けの推進(黒崎中)
○避難所として活用(旧神浦中、黒崎中)

2 市からの回答 と 話し合っていたきたいこと (つづき)

○黒崎海岸有料シャワー施設

第2回

(住民)
前回の
主な意見

- シャワー施設は、設置した経緯があるので、廃止の際は、住民やサーファー団体等と協議を行う必要がある。
- トイレは継続してほしい。



第3回

(市)
回答

- 黒崎海岸は、主に夏場のサーフスポットとして利用されており、ここを利用するサーファーからトイレやシャワー施設の設置、駐車場の整備について要望があり、平成10年頃から海岸に隣接する黒崎漁港を利用する漁協を含めて協議を進め、漁民や地域とのトラブル解消策として、平成16年に現在の場所に設置しております。
- シャワー施設は、大規模改修が必要になるまでは継続しますが、その時点で廃止したいと考えています。公衆トイレは、使用状況が悪く、地域からの苦情もあり、利用者とも話し合いの場を持ち、存続等について検討したいと考えています。

3班

(住民)
今回
出された
アイデア

- シャワー施設を大規模改修時に廃止することについてはやむを得ない。
- 元々この施設がある場所は、消防団格納庫もあるが、火事の時に消防団の人達が駆けつけてくる駐車場であった。サーファーの利用も少ないし、足りなければ黒崎港の広いスペースを利用してはどうか。

【講評】(アドバイザー: 首都大学東京 都市環境学部 讀岐 亮 先生)

- 時間が限られる中で、いろいろと考えていただきました。
- 公共施設については、名前にとらわれてしまって、真に必要な利用ができなくなることがあります。名称の変更も含めた柔軟な対応も、公共施設を「賢く」利活用するために重要なことではないでしょうか。
- 廃止、存続するという施設に限らず、皆さんも地域を維持していくために、自分に何ができるかを考えてもらいたいと思います。そのために今日出た意見は発展性がありそうでしたし、それを共有できたことはよかったですと思います。この考えを発展させて、第4回につなげていきましょう。

次回の対話では・・・

最終回の第4回は、第3回の対話で住民の皆様から出された意見に対しての市の考え方をご説明し、議論を深め、意見を集約したいと考えています。

第4回 日時:平成30年2月18日(日) 13:00~15:00

次回の対話

場所:黒崎地区公民館※第3回目とは場所が異なります!

◆お問い合わせ:長崎市理財部資産経営室(☎直通:095-829-1412)